

【公表】

取組実績の概要（2ページ以内）

取組は「コンピテンシーベースディプロマ・ポリシー」、「カリキュラム体系再構築」、「全学的授業改善」をキーワードに、「学修過程の可視化」と「学修成果の可視化」を実現することで、社会の要請に基づく質保証に応え、もって高大接続システム改革に資する教育システムの確立を目指した。

本プログラムの推進にあたっては全学的な体制を組み、全教職員参加のWG等における熱心な議論を経て「CIST質保証マップ」の構築やカリキュラムの体系化など教育改革の体制を整備することができた。その成果の結果として、卒業生の進路に関し、進路決定の割合や理工系分野業種・職種への就職割合が目標値を達成した。今後の課題として目標値に至らなかった、学生の授業外学修時間の確保や学生の成績評価目標（GPA）について継続して取り組み、グループワークなど学生の主体的な学びを促す授業へ質の変換を促すことで達成すべく、体制、施設の整備を進め、早い時期の目標クリアを目指す。以降に項目ごとの取組実績を示す。

【学生の成績評価】

AP実施期間におけるGPAの指標は、平成28年度が2.3、平成29年度が2.4、平成30年度が2.5、令和元年度が2.6としていた。それに対し、実績値は、平成28年度が2.39、平成29年度が2.40、平成30年度が2.41、令和元年度が2.46であり、最終目標値には到達していないが年々上昇がみられる。表1に年度別、学年別のGPAの推移を示す。学年別にみると令和元年度の1年生は2.68と目標値に到達している。今後も教育の質保証を議論しつつ質向上（GPA向上）を目指す全学的なFD活動が必要である。

表1 年度別・学年別のGPA推移

| 学年 | 平成28年度 | 平成29年度 | 平成30年度 | 令和元年度 |
|----|--------|--------|--------|-------|
| 1年 | 2.50 | 2.46 | 2.48 | 2.68 |
| 2年 | 2.30 | 2.37 | 2.27 | 2.31 |
| 3年 | 2.36 | 2.33 | 2.47 | 2.32 |
| 4年 | 2.41 | 2.41 | 2.41 | 2.54 |
| 全体 | 2.39 | 2.39 | 2.41 | 2.46 |

【学生の授業外学修時間】

ディプロマ・ポリシーに掲げた主体的学修の重要性の意識づけを図るため、ポータルサイトのアンケート機能を用いて授業外学修時間の調査を行った。調査は、各学年・全学科の必修科目の授業時に毎週行い、直近1週間の卒業研究、資格取得対策などの自主的な学修を含む全ての授業外学修の合計時間を入力させた。また、机上学修以外に通学や休み時間の学修などの時間も計上させ、調査の回答率は、令和元年度の平均値は前期調査で73.5%、後期調査では52.5%であり、前期は平成29年度から約15%向上した。

令和元年度春学期の1週間あたりの平均授業外学修時間は、1年生が9.8時間、2年生が11.3時間、3年生が11.6時間、4年生が22.2時間であった。令和元年度における授業外学修時間は36時間とされており、平均時間は、これには及ばないものの、4年生については36時間を超える者が30%近くいた週があった。今後は、毎週の調査を継続し、学生へのアンケート、ヒアリングを実施する。また、教員、学生間での調査結果を共有し、分析を行い、得られた結果を全学的な主体性を促す授業設計の改善に活用していく予定である。

【進路決定の割合】

本学では初年次より一貫としたキャリア教育を実施してきた。一連のカリキュラム改革に先立ち、昨年度より初年次のキャリア教育を必修とすることで、早い段階から大学での学びと就職との関連付けを意識する教育を実施している。また、キャリア教育の授業では、社会で必要となる能力について考える機会をアクティブ・ラーニング形式の授業スタイルを導入するなどによって、より深く考える内容に改善してきた。また、学生一人一人に対して、きめ細やかなキャリア相談・指導を徹底できる体制を整備してきた。その結果、ここ5ヶ年の進路決定率は一貫として90%を超えており、当該項目の数値目標

を達成することができた。今後ともこの成果を維持・継続していくために、就職への意識を高める授業改革とキャリア支援体制の改善を継続的に進めていく必要がある。

【事業計画に参画する教員の割合】

本事業の中核であるCIST質保証マップ作成にあたっての各領域WGは全学WSと位置づけ、全学専任教員が参加する学事連絡会議（現在の教授会）後に行うことで、参加率100%となった。また、本事業では、活動が独善的・蝸壺的にならないように外部意見も積極的に取入れた連携ワーキンググループ（WG）を設けてCIST質保証マップ作成に取り組んできた。

- ① 高大連携：連携校の高校教諭から、CIST質保証マップの高大接続部分の助言、FD研修講師を依頼（全体会議3回実施）
- ② 大学連携：他大学の教員によるCIST質保証マップの助言、FD研修の講師（全体会議6回実施、各大学へ個別視察およびヒアリング実施）
- ③ 社会連携：企業11社からディプロマ・ポリシー、CIST質保証マップ、ディプロマ・サプリメントに関する助言を得る（全体会議5回実施、各企業へ個別ヒアリング実施）

【質保証に関するFD・SDの参加率】

各年度のFD・SDの参加率は平成28年度が88.7%（64/73）、平成29年度が90.8%（69/76）、平成30年度が83.8%（62/74）、令和1年度が73.0%（54/74）であった。令和元年度については、新型コロナウイルス感染拡大を受け3月に実施予定のFD研修をすべて延期としたため参加率は低い結果となった。FD研修会では、eラーニングを活用した反転学習や授業設計、シラバス設計、教育の質保証などをテーマに行い、講義科目のオンライン化における授業デザインなど大いに役立っている。

【卒業生追跡調査の実施率】

本学では、AP事業を通じて学修成果の出口となる就業先の企業に対して、社会連携WGメンバーを中心に卒業生の就業状況や採用卒業生への満足度等のアンケートを実施してきた。一方、開学以来の全卒業生を対象に、郵送によるアンケートを実施し、「在学中に身についた能力に対する評価」、「社会に出て必要なスキルや知識」、「本学への満足度」等の調査を行ってきた。アンケートに対する回答率の向上施策として、多くの卒業生が在籍する企業の人事担当者への協力依頼、研究室OBのネットワーク等の利用、さらには学内でのイベント参加時での直接依頼などにより、毎年回答者の積み増しを図ってきた。その結果、実施率については21.2%となり、最終年度目標である20%を上回り目標を達成することができた。今後は、不断のカリキュラム改革を継続するために、引き続き卒業生の就職先企業に対するアンケート依頼や、同窓会や研究室OBのネットワークの活用などにより、より多くの卒業生からの回答を収集するしくみづくりを構築していく予定である。

【必須指標の達成度】

| | 平成28年度 (起点) | 令和元年度 | |
|---|----------------|--------|--------|
| | | 目標 | 実績 |
| 学生の成績評価 [GPA等、成績の伸長が測れるもの] | 2.39 | 2.60 | 2.47 |
| 学生の授業外学修時間 [時間数（1週間あたり（時間）。測定方法も記入）] | 12.9時間 | 36.0時間 | 12.7時間 |
| 進路決定の割合 [%（(就職決定者数+進学者数)/卒業者数）] | 95.3% | 90.0% | 93.2% |
| 事業計画に参画する教員の割合 [%（(参画教員数/在籍教員数）] | 100% | 100% | 100% |
| 質保証に関するFD・SDの参加率 [%（参加教職員数/在籍教員数）] | 87.7% | 100% | 73.0% |
| 卒業生追跡調査の実施率 [%（調査回答者数/卒業者数）] | 16.1% | 20.0% | 21.2% |